

ビデオ版ティーチングテップス集の開発

辻 高明

京都大学大学院情報学研究科

1. 背景

本発表では、(財)NHK 放送研修センター日本語センター（以下、日本語センター）のエグゼクティブ・アナウンサーと共同で開発した「大学教員向け ティーチングテップス集」を紹介する。近年、各大学でさまざまな FD の取り組みが行われている。教員間の授業参観や相互研修、対話やネットワーク作りも重要であるが、教員の授業力向上とは、詰まるどころ、授業場面での「行動」の変化を意味する。本テップス集は、話すこと、伝えることのプロであるエグゼクティブ・アナウンサーの豊富なスキルを、授業場面を念頭に置いたテップス形式にしてまとめ、教員が授業で自身の行動の改善に役立てられることを目指して制作したビデオ教材である。

本教材の制作は、京都大学大学院情報学研究科（以下、研究科）と日本語センターとの連携実績に基づいている。研究科では、日本語センターの協力を得て、毎年度大学院生を対象にしたプロジェクト科目「戦略的コミュニケーション 세미나（日本語コース）」を開講している。発表者は本科目の京都大学の担当者となっている。本科目では、話す、聞くから、プレゼンテーション、ネゴシエーション、スピーチなどのコミュニケーションのスキルについて、日本語センターと共同でテキストを開発し、エグゼクティブ・アナウンサーが講師となり、大学院生に短期集中形式で指導を行っている（図 1）（辻 2009）。

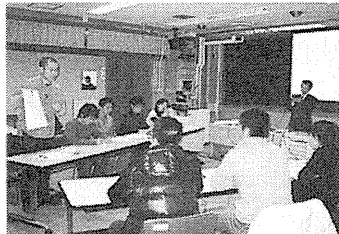


図 1 戦略的コミュニケーションセミナー（日本語コース）の授業風景

2. ビデオ版ティーチングテップス集の構成

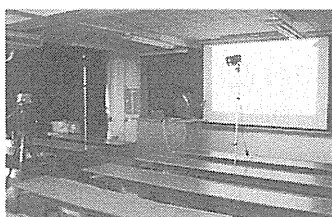
本教材は、全部で 12 項目の内容から構成される。各項目で 3 つ程度テップスを設けており、全部で 35 個のテップスからなる。図 2 に具体的な項目およびテップスを示す。それらは、日本語センターが持つコミュニケーションの豊富なコンテンツと、大学授業に関する書籍を参考にして作成した。すべてのテップスについて 2 名のエグゼクティブ・アナウンサーによる実演と解説を行っている。一人が実演役、もう一人が解説役を担当している。実演役のアナウンサーは「生物多様性」について講義する教員役を演じている。各項目 7 分程度で構成され、本教材は全部で約 90 分の長さとなっている。11, 12 項目では、講義を受ける受講生役として情報学研究科の学生が出演している。

項目	テップス
1. 講義の目的を明確にする	・ 講義はまず結論から ・ つなぐ言葉で論旨をはっきりさせる
2. 話し癖を直す	・ 空白に耐えて 間投詞を取り除く ・ 語尾延ばしと語尾上げを言い切ることで取り除く ・ 自然に話すには等拍にする
3. 講義ノートで記憶をリフレッシュする	・ 講義ノートを書き換えて生き生きと話す ・ 始める前に講義ノートを声を出して読んでみる ・ 講義ノートを一目で構成がわかるように書く
4. ポイントを際立たせる	・ 内容を絞り込む ・ 具体的に表現する ・ 卓立でキーワードを際立たせる
5. 話しにメリハリをつける	・ 間で話をわかりやすく展開する ・ チェンジオブペースで話しの幹と枝葉を分ける
6. 言葉を活かす	・ 説明と言い換えで専門用語を活かす ・ やめたいこそあど言葉 不確か言葉 ~的言葉 ・ 擬態語や擬音語を使いこなす
7. 自然な口調で話す	・ 長い文を主文と補完文に分ける ・ 母音は舌の動きで作る ・ 子音の発音は口の力を抜く
8. 聞きやすい声で話す	・ 講義前に声の調整 中央席の学生と雑談してみる ・ 声がかれたら 声帯を休ませる 湿度を保つ 身体をほぐす ・ 状況に応じてマイクを選ぶ
9. 黒板を上手に使う	・ 板書の文字を精選する ・ 書くのは 講義の目次 公式やデータなどの重要事項 質問で引き出す学生の理解 ・ 黒板で対話しながら講義する
10. スライドショーをわかりやすく進める	・ 情報量をコンパクトに ・ ハンドアウトは別に作る ・ アニメーションで注目点を強調 ・ 発表者を埋かび上げさせる ・ 聞き手に合わせて進行する
11. 質問で学生に考えてもらう	・ 質問で 意図を学生にわからせる ・ 学生全員に考えてもらう ・ 考えて答える質問をする
12. 話し合いで内容を深める	・ 学生の試行を広げる一言を ・ 話し合いの鍵は 見守る我慢 ヒントを出すタイミング

図 2 教材の項目とテップス

3. ビデオ版ティーチングテップス集の制作と効果

本教材は、発表者とアナウンサー2名で項目内容を検討し、京都大学において、教員役アナウンサーの実演部分の撮影、学生を交えたロケーションを行った。その後、日本語センターで、解説役アナウンサーの解説部分の撮影、および全体の編集作業を行った(図 3)。



京都大学での教員役の実演部分の撮影① 京都大学での教員役の実演部分の撮影②



京都大学での学生を交えたロケーション NHK(日本語センター)での編集

図 3 ビデオ教材の制作過程

本教材は、現在(本原稿執筆時点)、最終の確認作業を進めている。完成後、教員に配布する。当日は、本教材を使用した研究科教員たちによる座談会のデータを含め報告する。

参考文献

辻 高明「情報系大学院におけるコミュニケーションスキルの強化を目指した教育実践—京都大学大学院情報学研究科のプロジェクト科目を事例として—」日本協同教育学会第6回大会, 2009年, 10月18日, 神戸大学